

Soon

お披露目!! SooNトークセッション コンテンポラリーダンスの『 』

ドキュメンテーション記録

第一部

大園) こんにちは。コンテンポラリーダンスのマルチチーム、SooNのお披露目のトークセッションを始めます。今日の進行を務めます、SooNのメンバーの大園と申します。よろしくをお願いします。

このSooNというチームは、今年の4月に立ち上がったんですが、今の時勢、やはりリアルに集まるのが難しく、基本オンラインでミーティングを重ねてきました。

今日初めて全員が一堂に、リアルに会って、みんなで顔を突き合わせてトークをする、という会になります。

鄭)

では早速、代表の目澤さんにSooNの成り立ちとコンセプトをお話してもらおうと思います。

1. オープニング

2. ピッチプレゼン

休憩

3. 『 』に入るものトーク

4. エンディング

About **Soon**

目澤)

初めまして。SooNの代表を務めております目澤美裕子と申します。まずSooNのことをお話させていただきたいと思います。私たちはコンテンポラリーダンスというジャンルに軸足を置いて活動しているメンバーです。私は普段プロデューサーや制作を専門にしているのですが、SooNメンバーには制作者のほか、ダンサー、ビデオアーティストなどがあります。メンバーの肩書そのものに多様性がある、マルチなチームです。

コンテンポラリーダンスが、ジャンルとしてどのように可能性を広げられるかを考えた時に、他の業界や領域と新しいコラボレーションが生まれるような仕組みやプラットフォームづくりが出来たら、ということを考え声をかけた結果、このメンバーが集まって活動することになりました。私たちの活動の目的は、コンテンポラリーダンスの活動の幅を広げる、キャパシティを広げることです。そこには、作品を創ることも含まれますが、他にも例えばプロジェクトを立てる、環境整備をする、ファンドレイジングのシステムを作るなど、コンテンポラリーダンスの活動の可能性を増やすことを考えていこうというのが、SooNのメインテーマです。

では、メンバーの自己紹介から始めたいと思います。まずは私から。

大学でコンテンポラリーダンスを学び、ダンサーとして活動をしていました。卒業後、ダンサーをしながら劇団で俳優のマネージャーを経験したのちに、ダンスの制作・プロデューサーの仕事をするようになりました。現在はダンスカンパニーBaobabに所属し、カンパニーのプロデュースをしています。演劇、ダンスという二つの分野にまたがって活動しており、カンパニーではたまに踊ったりしています。踊ることもプロデュースすることも、どちらも私にとってはダンスだな、と思っているので、広い意味でダンスを捉えて今後もやっていきたい、と思っています。

大園)

大園康司と申します。ダンスユニット・かえるPを主宰して、ダンス作品の振付・上演をしています。また、子ども向けのワークショップや幅広い年代を対象としたアウトリーチの活動を展開をしています。また、現代演劇を中心として音響デザイナー、プランナー、オペレーターとしても活動をしております。ほかにも、クリエイターやクリエイティブワーカーの人たちが集うコワーキングスペース、コミュニティスペースの企画、運営に携わっていたり、イベントを作る、ということを生業としています。コンテンポラリーダンスや舞台業界が、どのように他の社会的な領域と接続していけるかというところに興味があります。あくまでアーティストとしての活動に軸足を置きつつ、ダンスのすそ野を広げていくというのが、目下の目標です。

阿部)

阿部晃久と申します。ダンスとパフォーマンスアーツの制作です。この度、代表の目澤さんにお声がけいただいて、メンバーに入れて頂きました。メンバーのみなさんが志が高い方々ばかりで、新しい次世代のダンスを盛り上げていく仲間ができたな、と思っています。これからいろいろ話しながら盛り上げていきたいなと思っています。どうぞよろしくお願いします。

柴田)

柴田菜七子と申します。よろしくお願いします。目澤さんと大園さんと同じ出身校で、後輩にあたります。大学卒業後は人材サービス会社に就職し、ずっと広報をやっています。今は週3日正社員で働き、ダンスを週4日踊る「踊る広報」という肩書で活動しています。ダンサーとしては、「TABATHA」という女子4人のユニットや、自主的に「踊る銭湯」というプロジェクトで、銭湯で

ダンス上演を企画しています。SooNを通して、いろんな人と楽しいことができればと思っています。よろしくお祈いします。

小山)

小山晶嗣と申します。よろしくお祈いします。私は、アメリカの大学に留学して、ビジネスを勉強していたのですが中退し、日本に帰国してから紆余曲折があり、22歳でダンスを始めました。そこからフリーのダンサーとして10年以上活動してきた中で、もともとビジネスを勉強していたということもあり、ダンスをもっと社会に出すということが大事だと思うようになりました。現在はダンサーをやりながら、合同会社 syuz'gen という舞台芸術を主とした制作会社で、アートマネージャーとして働いています。SooNのなかでキャリアを活かしながら発信していければと思います。どうぞよろしくお祈いします。

西)

すごい緊張しますね。西純之介です。皆からはJと呼ばれたりしています。普段は映像、振付、写真をやったりします。僕は京都造形芸術大学の映画学科の出身で、そこでふらふらしているんなことを学びつつ、卒業してからもふらふらしていました。仲の良いダンサーたちと、実験的なクリエーションをしながら、シーンを盛り上げたいという気持ちでやっています。よろしくお祈いします。

鄭)

鄭慶一と申します。名前から推察いただけるかと思いますが、在日韓国人4世です。主に福岡県北九州市で活動しています。もともとは、北九州の「枝光アイアンシアター」という、銀行跡地をリノベーションした小劇場の運営をしていました。劇場で作品を上演するだけでなく、商店街の道路でフェスティバルを企画して、ダンサーとお客さんを踊らせる、っということをやっていました。よろしくお祈いします。

企画アイデア プッチプレゼンテーション

大園)

では早速、メインのプログラムにいきたいと思います。

今までリモートで打合せを重ねてきて、メンバーそれぞれが自分で考えたアイデアを共有してきました。普段の打ち合わせでは、固まらないアイデアをとりあえず共有してみて、ほかのメンバーからいろんな意見やリアクションをもらい、実行のプロセスを考えていく、ということをやっています。せつかくのトークの機会なので、普段我々の活動でやっていることを、この場で公に開くかたちでやってみたらどうなるのかを試してみたいと思います。

ルールとしては、持ち時間一人5分で、自分が考えているアイデアをプレゼンしてもらう。それに対して、ほかのメンバーがリアクションをしていく、アイデアの壁打ちですね。どのようなフィードバックの言葉が出てくるのか、そして聞いている方にどのような感想を持っていただけるのか、ということにトライしてみようと思います。生暖かく見ていただけたら。

では最初は鄭さん、よろしくお祈いします。

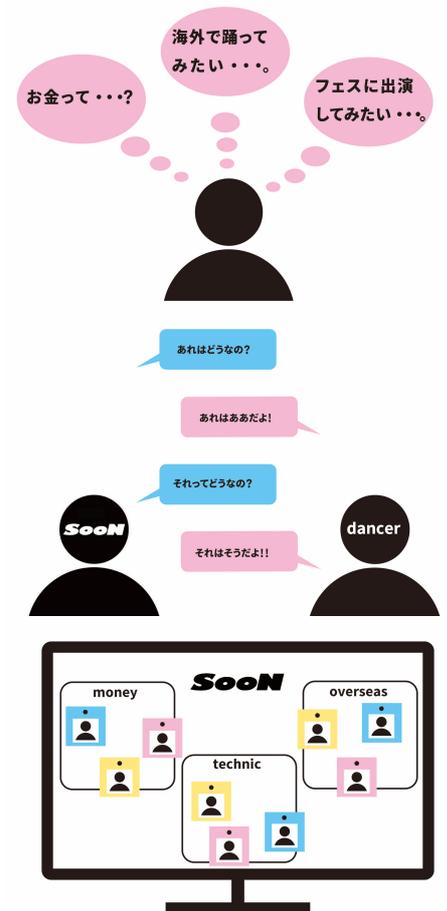
鄭 プレゼンテーション

鄭)

よろしくお祈いします。僕はこの中で一番コンテンポラリーダンスに触れている歴が短いと思います。これまでコンテンポラリーダンスを扱ったフェスティバルを企画してきて、最初、誰に聞けばこのジャンルの方と繋がるのか、ということが分からなかったなと。それが解消できないか、ということはずっと思っていました。SooNメンバーになってから、そうだ、これを実現に移したいなと思って、こんなことを考えていますっていうのをお話する前に、今、皆さん画面に映っているのが、昔の僕ですね。僕ダンス踊らないんで、海外で踊ってみたい、と思ったことないですけど。こういう方がいらっしゃるとうましよう。左側にいるのがSooNのメンバーですね、で右側にいるのが、どなたかしら、例えば目澤美裕子さんだとうましよう。ダンサーさん、に僕がSooNの人間としてインタビューをする。特にテーマも決めずに。インタビューしていくうちにこの人とはこういう話になったりとか、なんとなく会話のカテゴリが出来ると思うんですよね。例えば、お金であったりとか、それこそ海外で活躍するにはとか、フェスに出るには、とか賞をもらうにはとか、いろんなことが出てくると思うんです。そういったものをホームページにビジュアルライズして、お金、次送ってもらおうかな(スライド画面変わる)、こんな感じで、お話をしたことをホームページにまとめられるといいなと思っていて、例えば向かって左側なんかな、この人とこの人とこの人はお金の話になりましたってことをカテゴリでまとめておいて、例えばポストイットみたいなのをクリックして頂けると、その人とSooNのインタビューというか対話が聞けて、で、それがお金の話になっていて、みたいなことで、いろんなジャンルでいろんなダンサーさんとそういうお話をしあって、ていうのを一枚絵でまとめて、ホームページにいるんな方に来て頂きたいってのがあるんですね。やっぱホームページ使われた方がいいと思いますし、見られてなんぼだとうまいなので、そういった形でホームページを、いろんな方にコンテンポラリーダンスに触れてもらう、とか、いろんなことを知ってもらう場所にできたらなと思っています。2分半。そうですね、意見もらってもいいですか？

全員)

ありがとうございます。



大園)

じゃあ、早速ですけどやっていきたいなーと思いますけど、今の受けてパツと思いついたこととかありますか、何かリアクションとか感想でも。

目澤)

カテゴライズって、おんなじ人が例えば違う話をしていたらどうやってカテゴライズするんですか。

鄭)

それは難しいよね、と思った、昨日の夜。でもおおよそできるかなって思ってる。円と円が重なるみたいなこともあっていいと思うの。お金と、お金を稼ぐと助成金みたいなものが合わさる部分ってあったりすると思うんですよね。そのファンディングと助成金を一緒に考えてる人とかもいると思うので、じゃなくてゴリゴリ自分のダンスだけファンディングしている人もいると思うんですよ。そういうカテゴリーの分け方はレイヤーが重なるみたいなことは起きるのかなーと思っています。

柴田)

それはあれですか？こういう感じで動画で流す。インタビューをするみたいなイメージなのか、ブログ的なイメージなのか。

鄭)

たぶん、数があつた方がいいと思うので、このご時世 ZOOM がばか流行ったじゃないですか。なので、これ使えるなと思って。馬鹿みたいに数を増やし、基本的には読み物かなと思っています。

目澤)

じゃあインタビューはあくまでインナーで。公開しない形でやる。

鄭)

ですね。公開したほうがいいかな？

目澤)

ポイントで切って公開しても面白い気はするよね。読み物だけだとやっぱり文字読むのって結構

鄭)

大変か。

目澤)

なんか、組み合わせてもいいのかもねとか思ったけど。映像の部分と。

鄭)

要約したテキストとかね。

目澤)

そうそうそう。つらつらこう、インタビュー記事みたいに書くと結構読むの大変だし、たぶん1時間とかやっちゃうでしょ。

柴田)

たしかに。ミニタイトルが重なってて、何分からこれ喋ってるよ、みたいなだけあれば。編集も楽かもしれないし。

鄭)

あってもいいなと思ってたんですけどずっと。意外とないなって。

大園)

たしかに似たようなものはあるというか、既存のものであると思うんですけど。今の鄭さんのドストライクなものっていうのは、あそこが足りなかったり、あそこが足りなかったりとかそういう気がする。

(ベル鳴る)

大園)

今5分。

鄭)

これで5分。

目澤)

あと5分ある。

鄭)

言い忘れました。ダンサーさんの顔が見れるっていうのはいいなと思っていて、そういう機会をもっと増やしたいなと思いました。ホームページのある意義もあるなと思っていて。まあアクセスって形ですけど、SooN に触れてもらうというか SooN に関わってもらうという意味でもいいなと思いました。

大園)

これ、質問です。これ創ったとして、どういう風に活用されたいかとか、そういうゴールみたいのって、理想とかってありますか。鄭さんの中で。

鄭)
理想はね、だからさっきのワイプで出てるやつが誰が何か分からないくらい数が増えるっていうのは理想なんですよ。でもそれぐらいかな。

大園)
なんか昔、ウェブで繋がるマップみたいのありませんでしたっけ？検索すると自分に関係のあるもの、が出てくるみたいな。

小山)
舞台人でもあったよね？

大園)
あった、あった。こう自分に関連のあるものが紐づいて可視化されて表になって。今もあるのかな。

鄭)
それこそマインドマップみたいになっていくってことやんか。

大園)
そうそう。自分と、例えば、僕の名前で検索するとするじゃないですか、で僕と関連性の高い名前。例えば今のメンバーだったら、SooNの名前が結構大きめに表示されて、それより遠い人は、、、、なんのサービスでしたっけ。

鄭)
SNS に紐づいてるやつじゃないですか。

大園)
かな、ちょっと覚えてないですけど。

目澤)
二河さん知ってるかも。

二河)
そうですね。SNS でそういうサービスが。

大園)
あれって可能性があるな、という風に思っていて、最近無くなっちゃったと思うんですけど。ああいう風に自分の現在地をこう、こういうネットのアーカイブで可視化して、そこから遠いところにいかにリーチしていくかみたいなことを自分で考えられるようなところのデータベース、みたいな感じに出来たらそれはそれで役立てられる。

鄭)
それは、いただきます。それ凄いいいですね。自分の今いる場所がどこなのかっていうのが分かるってすごいいいですね。

大園)
割りとそこって、測れない。

鄭)
たしかにたしかに。

大園)
僕やっぱ思いましたけど、この場で話すことで、自分がどうみられているかっていうのは、ある程度他者の視点が分かる。

鄭)
Zoom だったし今まで。

目澤)
ほんとに初めましての人いるもんね。今日ね。

大園)
こんなこと言ってますけど、僕と鄭さん今日初めましてですからね。こういう感じでいかなと思います。すみません。僕ばっか喋っちゃいましたけど。ではですね、二人目。

大園)
もう次か、とんどこ行きますよ。二人目は誰かな。ということで、柴田菜七子さんでございませう。ななこちゃん、お願いします。

柴田 プレゼンテーション

柴田)
ドキドキする。

大園)
じゃあ、今から5分ということで、測りますよ。キュー出します。よーいスタート。

柴田)
お願いします。お話する前になんとなく自分のベクトルをちょっと共有させてもらえばと思いました。私の興味あること、みたいなことでいくと、今ここに書いてある通り、ダンス界と社会の接点をつなぐこと、で、広報って今、やってるので、まさにそうだと思っていて、どんなにいいものがあったとしても、それをきちんと外に出せる人がいないと、伝わらないというところがあるので、そういう役割を担えればいいなという風に思っている。ということ、あともう一つは、世界中の人と心躍らせたいという。これは一生ですね。そういう場所を作れたらいいなという風に思っています。で、今やっていること、と、また今後 SooN でやっていきたいことっていうのをお伝えします。今「芸術は、自粛できない。」っていうプロジェクトをやっています。ちなみこのロゴはまーしーさんが書いてくれました。

他)
可愛い～！

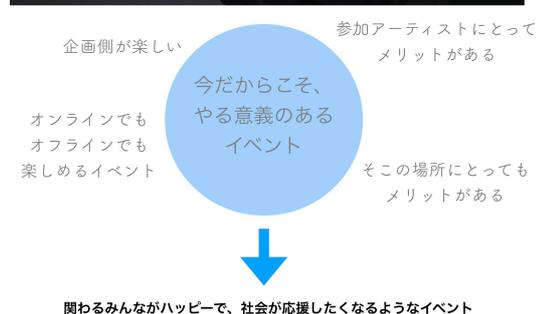
柴田)
これプロジェクトロゴですね。ありがとうございます。で、今第1弾、第2弾、第3弾とあるんですけど、第1弾が、動画を流しました。これは何かというと自粛期間中にいるとネガティブな話題が多い中で、いろいろ周りの人たちを見てたら、あまり変わらない感じでちゃくちゃくと皆努力をしたりだとか、自分の身体と向き合っているような姿を見て、この再開に向けて、みんな頑張ってるよ、頑張ってるよというか、ちゃんと準備してますよっていうことを伝えたくて、それを動画にしました。この思いに賛同してくださったアーティストさん20名ぐらいがですね、動画でラジオ体操の曲をもとに踊ってます。ぜひ芸術は自粛できない、ユーチューブでたいたいたら出てくると思うので3、4分の動画なので良かったら見て下さい。で、こういうポスターも、第2弾で、2、3個進めて下さい。

全員)
すごーい。めっちゃカッコいいじゃん。

柴田)
出演して下さった方々になります。発信を止めないようにこののを、制作チームでクリエイティブディレクターみたいな人がいるので、やりました。ちなみにその制作チームもほんとにボランティアで、そういうってちゃんと発信していった方がいいよねって言う方がやってくれたので、皆ボランティアでやってくれています。次、ですね。第3弾として、この動画をソロバージョンで最近流し始めています。最初の総集編で20名のダンサーが踊るようなものなんですけど、それをソロで3分のものを今出していて、今、いがちゃん、ふんどしダンサーの五十嵐さんと大宮大奨さん、柿崎麻莉子さんまでが出てます。よかったらそっちも見て下さい。で、次ですね、ここからなんですけれども、このプロジェクト第4弾で SooN としてやっていきたいなと思ってるのが、映像、このコロナの期間中にいるんなご縁につながった方々と、これは映像だけでなくリアルでできたらいいなとも思っていて、なんかリアルイベントをやりたいなと思っています。ただ、何でもいい訳じゃなくて、この状況だからこそ出来るもの、とか、意義があるものやりたいなと。これはちょっと楽観的なんですけど、企画側が楽しいとか、参加アーティストにメリットがあるとか、その場所にとってのメリットがあるとか、オンラインでもオフラインでも楽しめるイベントがいいな、と思いつつ、やっぱり今だからできるイベントっていうものが、出来たときに全体的にハッピーになるなという風に思ったし、社会が応援したくなるようなイベントになるんじゃないかなと思っていて、つい先日ふゆさんとプレストしたんですけど、次お願いします。今、案が2個、考えているものがあります。一つ目は GOTO キャンペーンで今、いろいろ話題になってるあれですけど、あるじゃないですか8月ぐらいから始まるのかな。国内旅行が最大半額になるみたいなものに絡めて、地方でイベントをやって、国内旅行をあっせんしつつ、そういうアートに触れるみたいなイベントにしてもいいのかなという風に考えています。というのが、この動画を流した時に知り合いのホテルを運営してる方が声をかけてくれて、うちのホテルでなんかやったらどう、みたいなことを話して下さったんですね。で、そこ京都と高円寺とか秋葉原にあるので、京都のホテルを棟借りして、移動型、お客さん移動型でパフォーマンスを観れる、みたいなものとかにしても面白いかなと。ただどうしても人数制限があるので、その辺は考えなきゃいけないんですけど。あと2番目は野外イベントですね。シンプルに。で、三密を避けた状態で、舞台を、円形のこの舞台をひとつ、ライブ型で開催するっていうなんとなく、今、もやもや妄想しています。



舞台表現者一同の想いを乗せた「舞台交響曲」
出演者20名、制作13名



(チーンが鳴る)

柴田)

最後、お願いします。ざっくり、今、ざっくりした2個の案なんですけど、アイデアどう思いますか、っていうことと、これ相談したい事ですね。で、やっぱりここが大事なんですけど、オンラインでも楽しめる仕掛けてなんだろうっていう。ただ、こう、配信、リアルの人が楽しいのは、思うんですけど、このオンラインでも楽しんでもらえる仕掛けて大事だなと思っていて、ここがうまく出来たら、いろんなダンス公演、別に他にも、転用できるなっていう風に思ったのでこの辺を考えられたらSooNらしくていいかなという風に思って相談です。

案1：国内旅行を斡旋する
GOTOキャンペーンに絡めたイベントを開催。
京都ホテルを一棟借りして、ホテル内移動型のパフォーマンス開催。

案2：野外イベント（例：日比谷音楽堂など）で三密を避け実施。舞台は一つのライブ型で開催。

大園)

ありがとうございます。はい、じゃあ早速いきたいと思うんですけども。今すぐ誰か。じゃあ僕指名してもいいですか。まあいろいろあげてもらったと思うんですけど、やっぱり最後のポイントだと思っていて、やっぱりオンラインのね、配信というのは、我々ライブのことやってる専門のことやってる者として、目の前に降りかかっている難題だと思うんです。でもね、そこはやっぱり映像的な視点とか必要だと思っていて、Jくん、メディアアーティストでもあるし、映像作家でもある訳ですけど、どうですか最近の配信とか。

西)

すーごい長くなりそう。なんかやっぱりその映像を使う時に、割とその機能に、ZoomだったらZoomの機能を見すぎて、本来の舞台とかダンスのあったものを、結構ずばって切ってることが多いと思うから。割と、皆でそれを思い出す作業じゃないけど、それを確認する作業が一回必要なんじゃないかなって、端末とか企画とかやる前に、何がZoomをやっちゃうと無くなってんのか、結構確認し合っていないじゃないですか。なんとなく映像を使うと、なんかよくないよねとか、オンラインだと、とか。逆に映像だと何がいいのかを考える時間が欲しいなと、確認し合いたいなと。

大園)

それはきちんとやっぱり棚卸した方がいい。ただただ感覚的にやるんじゃないで。

目澤)

なんかやんなきゃと思っちゃうもんね、映像。とりあえずやんなきゃって思っちゃう。

柴田)

たしかに。一旦そこに戻ってみるっていうのは。

大園)

で、もっと言うと今、そういう感じで、配信を絡めた企画、上演みたいのはどんどんできてるじゃないですか。お二人が制作、マネージメントと真ん中なので、最近、今自分が関わっているプロジェクトでも、なんかこれからやるうとしていることでも配信ということに対して、あたりします？阿部さんとかまーしーさんとか。

小山)

自分のやってるプロジェクトはもちろんありまして、そのプロジェクト、ちょうど映像関係のプロジェクトを一個やっていたので、それは配信っていう形でやるうとはしているんですが。映像の良さ、そうね、無い。

柴田)

いいですか。そういえば今思い出しちゃったんですけど音楽やってる人に、音がみそだと思われたことを、思い出しました。

目澤)

音にこだわった方が良ってこと？

柴田)

そう。ライブだと、たとえばダンサーだったらキュッと回る音とか、そういう息遣いとかが聞こえるけれど、オンラインだとどうしても平べったい音になっちゃうから、それでだいぶペラペラに見えるみたい。

鄭)

まさしく大園さんとその話をしているところだったんですね。

大園)

そうです。実は僕、配信のことって言われたときに、配信に何が必要で、何がこぼれ落ちるのか、そして、何がいいところなのかみたいなことが、すげえあるんですけど、スタッフとして音響の周りのことも関わったりしているので。それをしゃべると僕、、、って所で止めているところです。

柴田)

聞きたいですけど。

大園)

これでもね、しゃべるとほんとこれだけで時間使っちゃうんですよ。

鄭)

今度別で SooN で、一人で。

大園)
見ていただいている方も、ぜひ、個人的に、とか SooN のコンタクトフォームに書いていただければ、そこに長文返しますので。

柴田)
じゃあこれはまた改めて、ということで。

阿部)
すごく大事なトピックですね。

大園)
これからやっぱり、上演と映像っていうことを両輪で考えていかないといけない問題だと思います。いかにその作品の質を高めていくかみたいなことすごく大事だな、という風に思います。で、そうそう GOTO キャンペーンとかホテルのこと、すげえ話したいんだが。

柴田)
時間がね。

大園)
そうなんですよ。すみません。

阿部)
ひとつだけフォローしていいですか。柴田さんが映像作ったときに、出てる人とか作ったアーティストは、ボランティアでやっている、だけど、なんとか還元できるような仕組みをつくりたいってずっと強く言っていて。今はボランティアでも気持ちがあるからやっているけど、その先、還元できるよう繋げたいってことをずっとおっしゃっていたので、そこをやっぱり一緒に考えていくことができたらいいですね。

柴田)
超ありがたいです。

目澤)
何回再生いったの？結構いったよね。

柴田)
1万は超えました。ありがたいです。

大園)
なかなかね、コンテンポラリーダンスというものをメインに扱ったもので、そこまでやる力があるのは。

目澤)
ほんと凄いと思う。

柴田)
皆さんのお陰です。ぜひ次に繋げる、やりたいです。

目澤)
日比谷とかすごい盛り上がったよね。この前ね。

柴田)
川とかねあったんですけど、今年できるプロジェクトっていう風に考えたときに、また、ゆっくりお願いします。

西 プレゼンテーション

大園)
はい、ありがとうございます。話はずきませんが、次にいきたいなという風に思っております。では、3人目ですね、3人目は誰かという、西純之介くん。ということで、私がキューを出しますので、5分間でお願いします。いきますよ、よーいどうぞ。

西)
そもそもなんですけど、僕、これ何、今やってることなんでしたっけ。

他)
ピッチプレゼン。

西)
僕、ピッチプレゼンの意味すら分からなくて。昨日の夜に zoom で打ち合わせがあったんですけど、「何をするんやる、ピッチプレゼン.....」っていう感じやって。そしたら、今回のメイン「コンテンポラリーダンスのほにやらら（『 』）」をつく



ります」って話題になって、色々な意見が集まるなかで、「ん？なにこれ？」みたいな。アイデアの中に「サバ缶」ってあって、僕はめちゃくちゃ頭を抱えた。「サバ缶って何？」。でも、大園さんは「サバ缶だよ〜」って、全員ではなかったんですけど、「確かに、そうだね」ってなって、僕はますます「サバ缶ってどういうこと？コンテンツポラリーダンスの『サバ缶』をつくるってどういう意味？」ってなったんです。その後も他のメンバーは誰もサバ缶には触れずにミーティングは進んで、僕だけがなんかずっと考えて、「ざばかん？さばかん？さばかん？さば さばっ！」って、ハッとしたことがあって、とりあえずググりました。そうすると、「サヴァイブ (survive) / サバーブ (suburb)」みたいな単語ができました。でも、結局サヴァイブもサバーブも「何？」みたいな感じで、何も分からなかったのでウィキって見たら、めちゃくちゃおもしろな缶詰ができました

目澤)
流行ったやつだ。

西)
そうそう、流行ったやつなんすよ。一応、知り合いにもメッセージで聞いたところ、「サバ缶のような存在 (高たんぱく低カロリー使いやすい)。味に可能性がある。何かと組み合わせれば色んな料理ができる」というめちゃくちゃ的確な答えが返ってきて、他にも「ご飯がよく進む」「おいしい」みたいな意見もありました。要するに、サバ缶ってめちゃくちゃすげえんだなって思って、でも、そこで終わりにたくないなって、「さば かん」をずっと考えました。そうしたら、夜中の3時くらいに「SABA 館や！」と思って、僕はセブンイレブンでサバ缶4つとすき家のご飯を買って、「サバ館という劇場」を作ったらいいんじゃないかと思いつきました。みんな、「ん？」ってなったと思うんで.....昨日食べたやつなんですけど..... (物を持ってくる)

他)
洗った？

西)
サバ缶、こんな大きさなんですけど、これ秒で食べたんですけど。こういう風にちょっとサバ缶置いてみて、これを「サバ館劇場だ」みたいな。サバ缶ってさっきも言ったように便利とか、サバイバル向きで高たんぱく低カロリーとか、並べられるとか、めちゃくちゃ保存性高いとか、なにかしら劇場とリンクできるような事があるんじゃないかって思うんですよ。例えば 360 度カメラをサバ缶に入れて、「サバ館劇場」をつくって見たら、1 人一個、大園さん、マーシーさん、みたいな感じでそれぞれ作って一気にライブ配信とかしたら劇場一気に観れるやん！ って思って。カメラの特性で 360 度見れるし、VR とか使ってもサバ館劇場を体感できるんですよ。こんな感じで、めちゃくちゃくだらないところからでも、みんなが知る「サバ缶」の要素を抜き出して、仮想劇場みたいなのを考えていったら、色々な可能性がここに生まれるなと思いました。しかも僕、これ実践するためにサバ缶買い行って、さらにすき家も行って、一通りご飯食べて.....みたいなことを考えると、ここでもお金が回ってなと思って。

他)
なるほど。

西)
要するに何が言いたかったのかというと、色んな所からダンスを観てみる、劇場をつくって僕なんて昨日、劇場 2 個つくりましたっていう状態なんですよ。こういうところから劇場とんじゃないかっていうのが、僕のピッチプレゼンになりました。

他)
ありがとうございます。面白い。サバ缶でそこまでいったんだね。

大園)
なんか言いたいことがある人。ぜひ突っ込んで頂きたいんですけど。

柴田)
なんかでも響きが、単純にかわいい。

西)
そうそうサバ〜とかでめちゃくちゃサバ自体が流行ってることも面白いなと思って。それもらいたい、借りたい。こっちもサバ缶



「サバ缶」
「コンテンツポラリーダンスの『サバ缶』をつくります」



SABA 館
さば かん



サバ缶のような存在
(高タンパク低カロリー使いやすい)
しかし味に可能性がある
なにかと組み合わせれば
いろんな料理ができる



って入れたら売れるんちゃうんとか。

鄭)

昨日ミーティング中にメッセージ来たんですよ。サバ缶、分かります？送ったんですよ。

大園)

僕もきました。最初のスライドで出たやつが僕のコメントですね。そっくりそのままそうです。高たんぱくで、なんにでも使える。

鄭)

あれ大園さんなんだ。俺恥ずかしい。全然分からんって送ったもん。

西)

あと数人とか確認しても、なんとなくこういうことやろ、っていう人もいたり、全然分からなかったんですよ。とかいう、でもサバ缶って魅力があるから、ここからみんな劇場を、今から SooN で考えましょう。っていう。

柴田)

サバ缶イコール 360 度劇場みたいな、ニアリーイコールの名称になったら面白い。

西)

そうそうサバ缶自体もこうパッケージあるとあって、普通どっかの劇場でここにパッケージとか前、ないじゃないですか。みたいな、こういうのも展示されていったらかわいいな、とか。そういう使い方とかも。ダンスってのはそもそも踊れるスペースってものを、ホログラムとか VR、AR とかで観るのもできるけど、そもそも先に場所を作っちゃうみたいな。先に劇場を作って、自分らをここに踊ってみるか、みたいなのを考えてみるのもありかなっていう風に。

鄭)

めちゃくちゃしっかりしたね。

大園)

すごい良かった。

柴田)

今よく分かんなくなっちゃたのが、VR とか AR とか出てきたから、わかんなくなっちゃたのが、劇場を作ろうってこの大きさの、ここに作るってこと？

西)

逆にここにダンサーを入れてみる考え方をしてみようっていうのが。だからそれでカメラを入れればカメラの視点で観ることもできるよねっていう。ダンサーが踊ったものを配信するのがやっぱあるじゃないですか。AR みたいな感じにいないとにいるとか、じゃなくて、先に劇場から作っちゃう。

目澤)

例えば、見た人がその映像見ながら踊るっていうのもいい。

西)

さらに発展してもいいし、逆にここにカメラをぶっこんで、ここにホログラムとか AR とかで、ダンサーを入れて、サバ缶の中でダンサーが踊ってるっていう所が入り口。

他)

おもしろい。

西)

サバ缶じゃなくてもいいし、でも、食った後の場所で踊るとかも面白いなって思って。

他)

おもしろい。

西)

今日公演見たかったら、サバ缶買いに行っただね、みたいな、皆セブンイレブン行ってサバ缶買って食って、その後観る。ってなったらサバ缶食った後のダンスじゃないですか。こんな統一されたことくないですか。ダンスで、今回 30 人 100 人の観客全員サバ缶食ってる。

大園)

それ、サバ缶が名産の漁港に持っていったらいいと思う。

西)

一緒に。岩手県ですかね。

大園)

青森とかね。

柴田)
プロモーションしたらいい。

大園)
そうそう、GOTO に絡めて。

柴田)
なるほどねーやろう、おもしろい。

目澤)
ここ合体したらめっちゃおもしろいね。

柴田)
それ繋がるかもね。一緒に行けるかもね。

西)
京都のホテル行ってサバ缶。

目澤)
ホテル行って、サバ缶あればいいんじゃない。

鄭)
京都のホテルでサバ缶入るっていうこと？

大園)
そこら辺の細かいことはもう一度つめていくとして、いろいろ可能性のあるような話でしたね。ひとつ具体的なアートプロジェクトにフォーカスするのはすごい良いと思うんですね。サバ缶って何って発想からここまでいくってというのは、やっぱり言葉を代入するってすごい大事だになって個人的には思いましたね。一見すると関係のないようなことを適当に突っ込んでると、それに対してどう応答すればいいのかって反応ってのはすごい鍛えられるよね。それは大事ですねっていうことを確認しつつ、

大園 プレゼンテーション

大園)
最後ですね、先に言っちゃおうと、僕がやるんですけど、一応ですね、今回このショートピッチのプレゼンをやろうと言ったのは、僕が言い出したんですね。それぞれ自分がやることがあるんだから、きちんと人前でしゃべるという事をやった方がいいと、プロセスとして、ということをお願い出して、それを私が言い出しっぺで言ったからには、自分がやらないとまずいだろうということで、ここで時間使って、私やらせていただこうと思っています。基本的に SooN のメンバーの中では重複していることになると思うんですけど、聞いていただければという風に思います。すごくスライドもあまり力をかけて作れなかったんですけど。

目澤)
大丈夫！

大園)
よろしくをお願いします。私はですね、SooN のテーマである、ダンスのキャパシティを「広げる&支える」ということを自分のライフワークとしても考えています。作品を発表して活動して、人に見てもらおうというサイクルだけだとどんどん先細りしていくな、っていうのを常々感じていて。どのように自分の活動ができる環境を作っていくか、それにはやっぱり具体的に何かを起こしていかなないと、と思っています。

今、考えていることは具体的なものだったり、観念的なものだったりがあるんですけど、ここで紹介することは3つです。

ひとつめは、新しいダンスフェスティバルのかたちをつくる。個人的に、他の領域のクリエイターや、地域の人、いろいろな所で活動する人々と話すことや、地域コミュニティに入って行って活動することがあり。その中で今、可能性を感じているのが、多摩川なんです。多摩川は流域や沿岸というか、領域によってすごく違う顔を持っていて、例えば、奥多摩の源流の方に行くと、すごく自然豊かで、のどかな情景に溢れているんだけど、二子玉川とかに行くとすごく都市と環境が密接につながっていて、好空間として地域の人達の憩いの場になっていたり。あとは羽田の方、大田区の方に行くと海とか玄関口であったり、ちょっと工業地帯のソリッドで無機質なイメージがあったり。川のひとつの流れを取ってみても、いろんな顔があり、川自体にすごくポテンシャルがあるなという風に思ってるんですね。公園が整備されていたり、水辺があるってこと自体で人が集まって出入りがあったり、川自体のアクティビティがある。キャンプだったり、バーベキューだったり、たとえばサップ、カヌーとかの水遊びのアクティビティですね、そういう場所で、普段は劇場とかライブハウスで活動している人たちが外に出て行って、そこに集っている人たちと繋がってみるということを考えた方が、今後はいいんじゃないかな、という風に思っています。あとは、地域のスモールビジネスで活動している人。商店街とか、そういった形で個々のベースで繋がっているところあったんですけど。そういったところにきちんとコンテンポラリーダンスの人間が入って行って、地元の人たちとか地域の人たちと密接に関わりながら、作品を創ったり、一緒に創っていくような

- ①あたらしいダンスフェスティバルのかたちをつくる
- ②ダンスにまつわる言葉を深堀りする
- ③活動を持続できる枠組みづくり

①あたらしいダンスフェスティバルのかたちをつくる 



・多摩川流域(東京都奥多摩の源流→大田区羽田空港付近の東京湾出口)に点在する、様々な空間でのダンス
・それぞれの地域で活動するローカル/スモールビジネス、まちの人々と「ダンス」をつなぐ接点

目澤)
その人たちに向けて説明して、その人たちが分からんっていうところをピックアップしてフィードバックしてもらおうとか、そういうの出来たら面白い。

大園)
そういうことをやりたいなって。そこも両輪がうまくいってたら。

目澤)
やりたいね。

鄭)
もはやその場で言ってもらったら。分からん分からんみたいね。

目澤)
なにそれ、みたいな。身体をみつめるってなんですかとかね。

鄭)
みつめる？みつめる？

目澤)
たしかにたしかに。

大園)
だからそう、稽古場でやってることをそういう人たちに紐解いてもらうってすごい面白いなって。

小山)
あと今聞いてて思ったのは、作品、出てる人が副音声でその作品を振り返る。自分がダンサーやってて思うのは、公演終わった後での楽屋での話がめっちゃ面白くて、すごいマイナーだと思うんだけど、コアな話にはなるけど、今日ここ上手くいった！揃ったね、とか、ここやっちゃったとか、あとここは実はこんなこと考えて踊ってたとか。出演者側、目線立って、副音声で発信する。それはそれで面白そうだなって。

他)
そうですね。

鄭)
こないだ全く同じ、オーディオコメンタリーやったの。僕じゃないですけど。とある作品のオーディオコメンタリー付き、出演俳優たちの。むちゃくちゃおもしろかったですね。

大園)
それダンスでやった方がいいんじゃないかな。

他)
面白い。

目澤)
それやろう。

鄭)
まず踊んなきゃ。

大園)
解説されたい作品を募集するとかね。

他)
あ～～いいね。

大園)
僕が勝手に思っているのは、募集して、それを作品の文脈とか、稽古の様子を知らない人間が解説したらどうなるのか。とか、実況したらね。

鄭) 解説されたい人もそれはいいかもね。

大園)
それはいいかもね。夢は膨らみつつも。ということで、ちょっと時間がオーバーしましたが、こんな感じで。

大園) 4人終わりました。

全員)
拍手

大園)

せっかくなのでコメントいただいていたら。

鄭)
はい、コメント頂いてますよ。

他)
お！

鄭)
(YoutubeLIVE 配信参加者コメント)「芸術は自粛できない観ました。素晴らしかったです。ソロバージョン絶対出してください。DVDを出してください。」

他)
お～～

柴田)
買ってくれますか。ありがとうございます。

鄭)
(コメント)「オンラインコンテンツ、投げ銭よりもチケット前売り制のほうが、しっかり参加しようと思います。」へ～「地方の人間にとっては、今までは中央まで行かなければ観られなかった公演がオンラインで観れるのは、非常にありがたいです。」それはありますね。サバ缶もきてますね。(コメント)「鯖缶の内側に鏡入れたら人間も映り込めますね!」「鏡でなくても内側を磨くとか、フィルム貼るとか。」

他)
面白い。

西)
僕より上ってますね。

大園)
全部ひろいたいところだけど、後でまたゆっくり読ませていただいて、応答させていただきますので。ということでですね、第1部ここまでとして。

目澤)
あとは、今ピッチプレゼンで4人のメンバーがプレゼンをした他にも動いているものがあったりします。ちょっとだけご紹介しますね。今、こんな企画がたっております。ダンサーキャスティング。これ、私の企画です。私もともとさっきもお伝えした通り、俳優のマネジメントとかもやっていて、映像、CMとかドラマ、そういった所の現場に入ったこともあって、そういうところいくと、ダンスって、今もCMとかであると思うんですけど、コンテンポラリーダンスの人って誰に聞いたらいいか分らんっていうの言われていて、それはもったいないなと思っていて、キャスティングエージェンシーやりたいなと思っていてホームページを作ったりしています。今組み立てている最中なんで、ご興味のある方ぜひコンタクトください。詳細お伝えします。もちろん手数料いただく形にはなるんですけど、データベース化して見やすい物にしたりとか、ギャランティー上げていったりとかそういうことを出来るようなシステムにしたいと思っています。二つ目は、今メンバーの中にも若い世代がいて、学生と繋がり強い人もいます。結構若い世代からは、実際の現場の様子が分からないとか、あんまりリアリティがないっていうところもあったりして、そういうところと、例えば SooN のメンバーとかを直接話しをする機会を作ったりとかして、学生の皆さんにも身近に感じてもらって、舞台芸術っていいなとかそこに夢を持ってもらえるような、そういう企画とかも出来たらいいなという風に考えています。三つ目はこれは阿部さん発、なので、阿部さん補足してもらえれば。

阿部) ありがとうございます。テクニカルライダー、というものはですね。その作品がどういった構成で出来ているっていうことが書いてあって、それを見る、他の人が見ると、その作品が何分で、何人のダンサーが出て、道具に何が必要とか、衣装に何をするとかっていうのが見ると分かる書類なんですね。で、先ほどから大園さんが仰っているように、言葉にする、作品を創るのももちろん大事なんですけど。それを言葉に落とし込んで、それを広めるため。例えば、海外のフェスティバルで自分の作品見てもらいたい時に、作品のビデオ見てもらうのもそうなんですけども、それ以外に言葉として、この企画はどういう企画で、どれだけの規模で、どれだけの予算が必要でっていうのをまとめた書類になります。それをぜひ、しっかり作れば簡単に作れるので、この作り方をシェアして、皆さんのすばらしい作品をどんどん海外に持っていききたいな、そのための講座っていうのを開きたいと思っています。

他)
いいね、すばらしい。

目澤)
最後のもう一個、芸術は自粛できない、さっきなながやったプロジェクトなんですけど。私、アジアとかヨーロッパの同世代のプロデューサーとかのネットワーク持ったりして、そういう中で今モビリティ物理的に移動できない中でも、一緒に出来ないかなっていうのをずっと考えていて、ななこの映像を見て、これは万国共通のメッセージだなんてすごい思ったんですよ。なので今ななこと相談して、国際的な映像を作れないかなっていうのを画策しています。そういう助成金も出てきたりするので、そういうの活用しながら映像化していったら、今このちょっと鎖国状態のこの状態、少しでもオープンに風通し良くできるような企画できるのかな、という風に今考えたりしています。今ここにあげた4つのもの以外にもプレスト段階のとか、様々なアイデアが飛び出してる、今日のも見ていただいたら分かると思うんですけど、結構ほんぼこほんぼこいるんなものが出てきていて、そういうのを着実に進めていって、いきいたいなという風に思っています。ので、ぜひぜひ今後とも注目頂けたらと思いますし、一緒にやり

たいとか、ちょっと興味あるとかいう方もコンタクト頂ければ、ウェルカムです！固定メンバー今のご固定メンバーですけど、全然柔軟に風通しのよくという風に考えているので、私も SOON に入りたいですっていう宣言とかお待ちしておりますので、ぜひぜひコンタクトください。お願いします。じゃあ大園さんにお戻します。

大園)

ですね、ということでちょっと時間があれですけども、ここで第 1 部終了で、5 分インターミッション、休憩にはいたいと思います。休憩の間ですね、1 部でマインドマップ書いていただいたのでください。ご自宅の PC の前でおくつろぎください。というところで 5 分休憩に。